山と花のたより 200号

２０１７年４月１５日　　松尾忠

メールアドレス　tadashi6414@smile.ocn.ne.jp

ＨＰ http://yama-to-hana-no-tayori.sakuraweb.com/

↑ムラサキケマン

春告げる花を訪ねて

３月中旬、両眼の白内障手術を相次いで受けた。そのため半月余り登山を自粛し、下旬に入って東京での会議から帰って後、二上山早朝登山を再開、断続的にそしてゆったりと山歩きを楽しんでいる。４月１日には山歩きクラブの例会で生駒山に登った。

３月には「三寒四温」の不安定な天候が続き、サクラの開花宣言をも待ちわびる状況が続いた。山では各種スミレが土手や路傍を飾り、ウグイスカグラが人見知りするかのように、ひっそりとピンクの花をつりさげ始めた。

花と鳥の競演

ショウジョウバカマ↑

４月に入ると、山は一気に春めき、色合い・濃淡さまざまの新緑が山腹を覆いはじめ、小鳥たちの囀りが、春雨をもものともせず、響いてくるようになった。「ツキ、ヒ　ホシー」と聞こえるイカルの美声が頭上から降ってくるかと思えば、登山道の近くの藪からは、ソウシチョウ(相思鳥)のテリトリーソングが聞こえてくる。数年前に二上山に姿を現したこの異国の鳥も、今ではすっかり先住者気取りだ。

↑イソヒヨドリ（当麻大池で松尾撮影）

新来の客と言えば、時々イソヒヨドリのよく響く美しい鳴き声が、二上山でも聞かれるようになった。長崎で育った私には「海岸の鳥」のイメージしか無かったが、数年前から大和高田市内土庫病院屋上を独り占めして鳴きたてており、ついせんだっては未明に私の寝室にまで、その声が届き、寝間着姿のまま、表に飛び出して鳥の姿を追い求めたこともあった。そしてついに二上山にまで進出してきたのだ。

私には異変としか思えず、念のため手元にある 1970 年版「日本の野鳥」を開いてみると「海岸に生息するツグミの仲間」と書いてある。さらにネットで検索すると「近年では都市部にも生息するようになった」とされている。鳥の世界で何かが起こっているのだろうか。

葛城山でも早春の花々が

４月１０日、天候が好転する気配が見えたので、二上山登山を切り上げて帰宅し、朝飯をかきこんで電車、バスを乗り継ぎ、9 時過ぎ葛城山登山口着。そのまま北尾根コースを登った。すぐにムラサキケマン、ミヤマキケマンが出迎えてくれ、スミレ、幾種類かのキイチゴ、

ミヤコアオイ→

↑ミツバツツジ(今、二上山で満開)

るメソウが色づいていたが、カタクリは何株かが蕾をもたげているだけで、開花にはまだまだの感じだった。下りは櫛羅の滝コースをたどったが、ショウジョウバカマやミヤコアオイが各所で花を開いており、スズシロソウも満開だった。

今月２１日には大阪側からこの山に登るが、その時は多くの花たちが春を謳歌していることだろう。

続・二上山に咲く花々　23

ネジキ(捩木)　　ツツジ科ネジキ属

写真　澤木仁さん

日当たりのよい雑木林に生えている落葉小高木。幹がねじれているので、この名に。5～6 月頃、横に伸びる枝の葉のわきに筒状つぼ型の小さい（1 センチまで）白い花をびっしりと列状にぶら下げます。花期には地面にたくさんの花を散り敷くので、下を向いて歩いていても、すぐに分かります。枝葉は有毒。

続・二上山に咲く花々　24

シャクジョウソウ（錫杖草）

ツツジ科シャクジョウソウ属（以前はイチヤクソウ科シャクジョウソウ属）

写真は　澤木仁さん

初夏～夏にかけて、うす暗い林の地面に姿を現します。ギンリョウソウと同じく「腐生植物」と呼ばれて、葉緑素を持たず、生活を菌類に依存しています。茎も花も淡い黄褐色で、下を向いて咲く姿をお坊さんや修験者などがもつ杖(錫杖)に見立てての名前です。

ここしばらく、二上山では見かけませんが、昨年ギンリョウソウが各所で出現したので、今年出会えそうな予感がしています。